

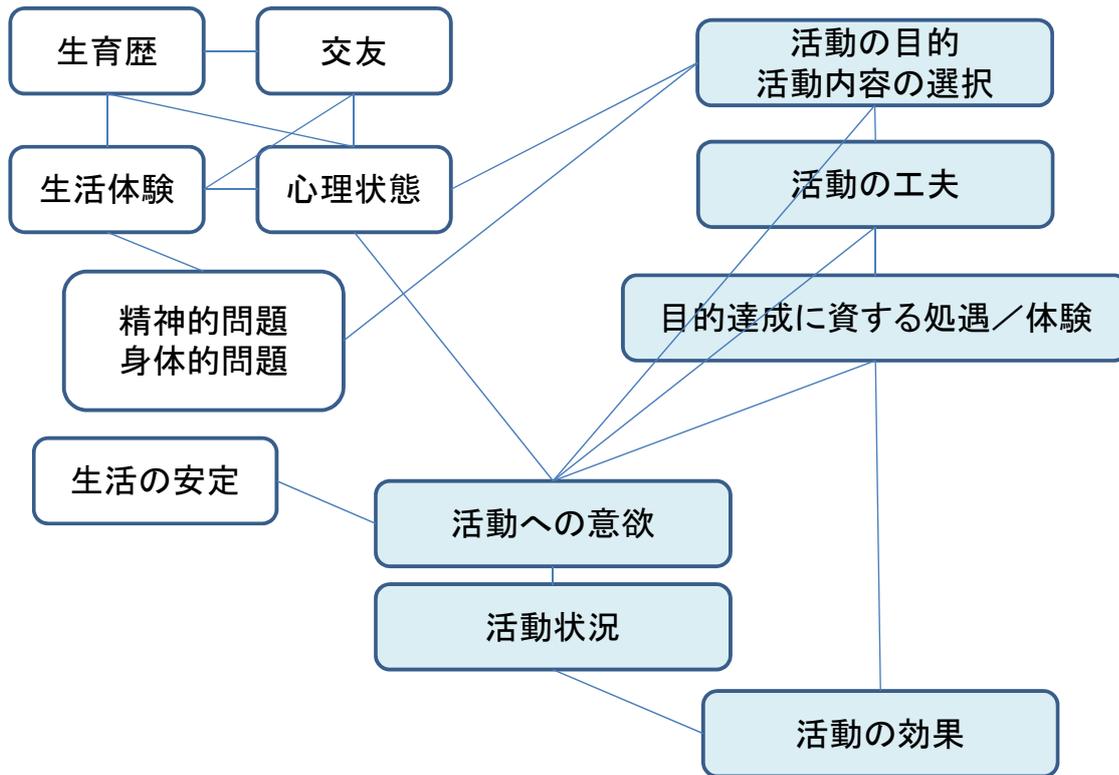
社会貢献活動の効果に関する 質的検証結果

問題と目的, 方法

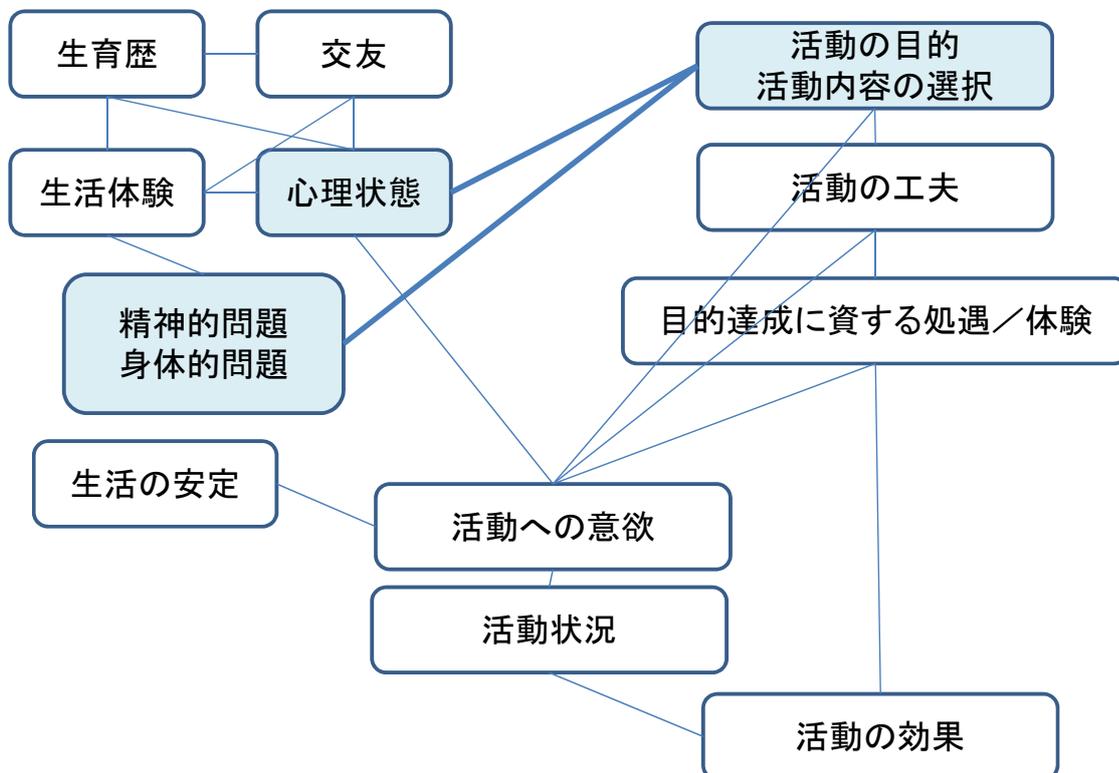
- 再犯や再非行のみでは効果を検証できない
- 活動の目的や効果を示す言葉(自己有用感, 社会性, 規範意識等)が不明確
- 自他への信頼感が高まることや保護処分歴がある場合にはそうではないことの意味

100事例(簡略な報告書)の質的分析(GTA参照)

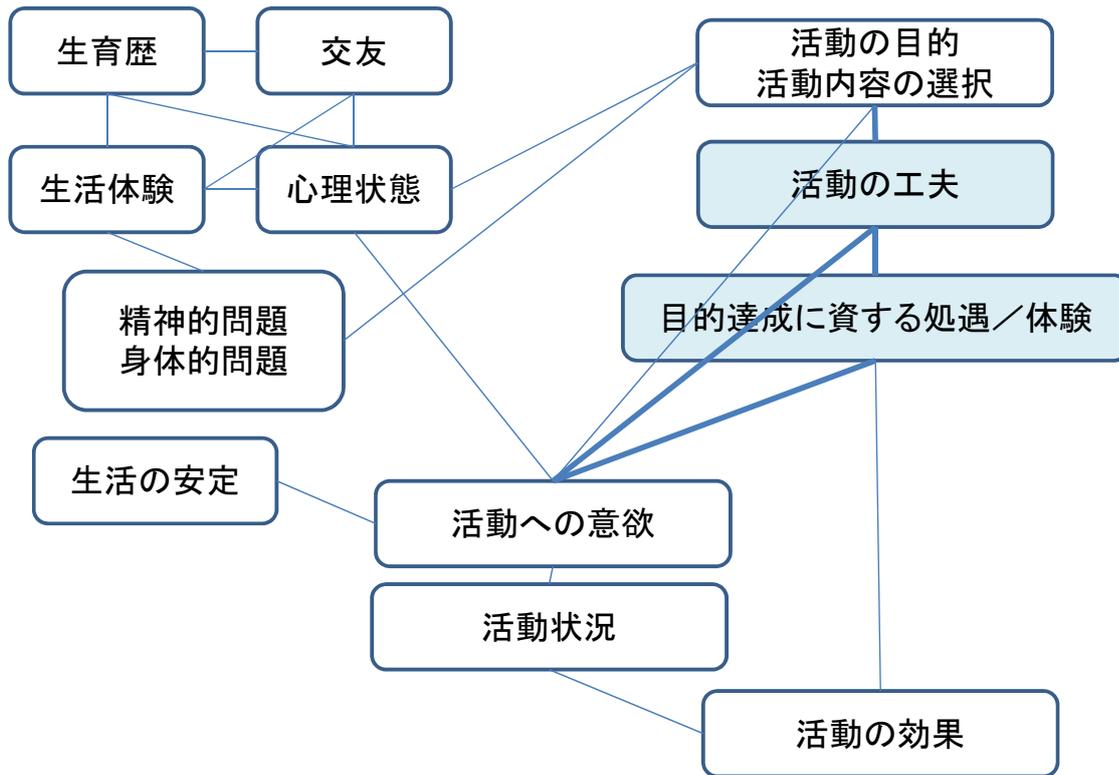
結果



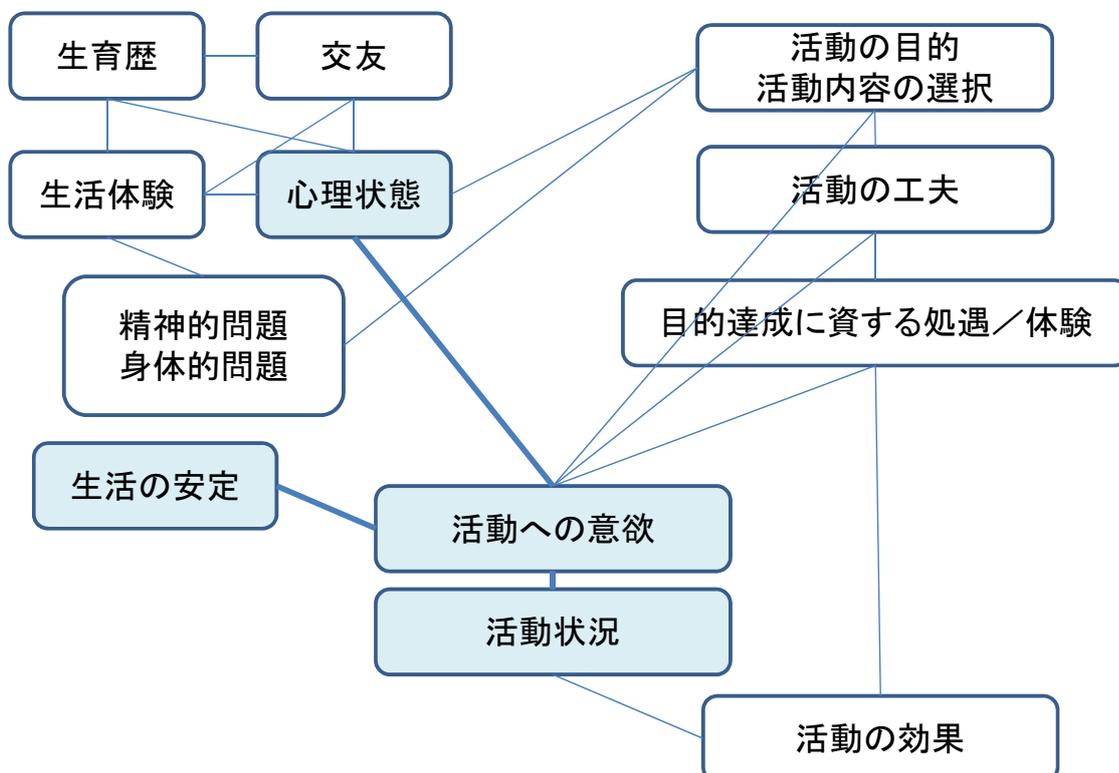
犯罪や非行の背景となった心理状態や
対象者の心身の現状等を踏まえて、
活動の目的を具体的に設定、活動内容を選択する



目的が達成でき、かつ、対象者の心身状況等に適合するよう、
活動の工夫を行い、
目的達成に資する体験が得られるよう助言指導や調整等を行う



犯罪性や非行性が深まっている者や生活が不安定である者については、
慎重に選定する



活動の効果

自己有用感の醸成	褒められたこと, 貢献したことの喜び 自信 達成感(耐性の強化) 社会的孤立の解消	自分への信頼感
社会性の向上	社会経験→就労 就労・自立意欲 コミュニケーション力の向上 他者への配慮や礼儀	他者への信頼感
規範意識の向上	本件への反省やしよく罪	
副次的効果	家族関係の改善 動機付け	